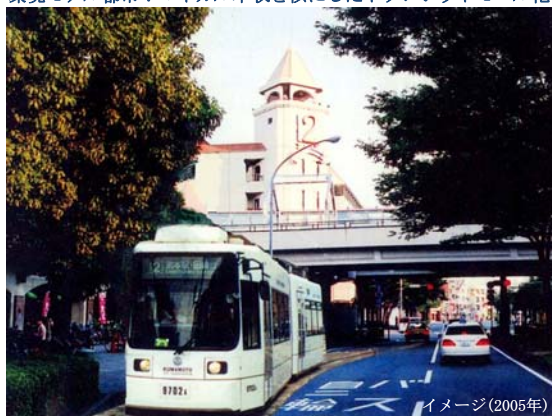


NPO法人 エコ住宅リサイクルバンク

ECOエネルギー地産地消型の 一歩先ゆく、地球温室効果ガス削減モデル都市 街づくりと公共交通システム(EST)

環境モデル都市：マイカル本牧を核にしたトランジットモール化



イメージ(2005年)

マイカル本牧前を走る次世代環境重視型公共交通システム(EST)例

スタート！



1/9

本牧の現状、まちの再生と活性化の必要性

- 本牧は「日本の中の小アメリカ」、リトルアメリカと呼ばれる！

マイカル本牧や本郷町商店街の多くは客足が遠のき、シャッターが降り閉店している現実があります。二十数年前に鳴り物入りで出店したマイカル本牧は、当時の面影は今はありません。「サステイナブル」という考え方や原三溪翁の思想を受け継ぐことにより、今後の私たちの街づくりや生き方などに大きなインパクトを与えることは間違いありません。



↑現在のマイカル本牧五番館



↑現在の本郷町商店街

2/9

「ECOエネルギー地産地消」構想と本牧のみらい

- 開港150年の歴史から学ぶ「市民力」



- ECOエネルギーの地域生産は
地球温暖化防止対策



- 地域消費型ECOエネルギーが
もたらす閑静な住居地区のまちづくり
(地元商店街や大手商業施設との共存への取組み)



3/9

開港150年の歴史から学ぶ「市民力」

- 開港150年を迎えた横浜と三溪翁

1923年の関東大震災で、破滅的な被害を受けた横浜から外国人商社などがぞくぞくと神戸に移転、瓦礫と化した街に直面し、絶望になっている市民を前に、「**横浜市**の本体は市民の精神、市民の元気であります」と演説。

- 本牧は、芸術家の創作活動の場

海外の知識人から絶賛されている日本の重要文化財を一堂に見ることができる名勝・三溪園。本牧には、海外と涉りあえる商い、芸術が集った。日本人のアイデンティティパワーに溢れているエリアである。



三溪翁

- 低炭素社会づくりに向けた協働

社会全体の二酸化炭素(CO2)排出量を減らすには、より多くの市民が継続的に取り組む必要があります。【※私達は、環境省のチーム・マイナス6%運動に2005年度から参加】
そのためには、暮らしのインフラである街全体そのものを「省エネ」・「創エネ」型に変えていく必要があります。歴史的な遺産と市民力を活かした、自然エネルギーの次世代型送電線網「スマートグリッド」整備の取り組みを進めることが、「**みらいの本牧**」の姿であり、ECOエネルギー活用の地産地消型「ECOコンパクトシティ」と考えています。
【経産省は2009年3月24日にスマートグリッド構築に向けた調査開始を発表】

4/9

ECOエネルギーの地域生産は地球温暖化防止対策

● 2008年に「環境モデル都市」に指定

中田宏市長は、他の自治体に先駆けて大胆な温暖化対策を進める施策を打ち出しています。「環境モデル都市」の指定は、その施策の「錦の御旗」になると考えています。

また、2025年までに市民一人当たり温室効果ガス排出量を30%削減する、脱温暖化行動方針「CO-DO30」への市民協力基本指針「ロードマップ」作成を進めています。

● 「省エネ」・「創エネ」技術を暮らしに！

暮らし方がもたらす意識変革は、省エネだけでなく、自宅で自然エネルギーをつくる「創エネ」をも加えれば、二酸化炭素(CO₂)の削減や、光熱費を一層節約できます。本牧地区で生産された「ECOエネルギー」を活用する環境重視型公共交通システム(EST)導入で、国の**実験モデル地域指定**を私たちは、目指しています。

【経産省は2009年度から太陽光パネル200基設置、既存発電所に与える影響についての調査】

● 東日本エリアに経済効果もたらす、「海の玄関口横浜」

国際観光港・「大さん橋」へ、かつて新港ふ頭4号岸壁の港駅まで走っていた臨港列車(ポート・トレイン)を近未来型に変えた次世代型観光列車の乗り入れを復活させ、最寄り駅から東日本エリア観光地に向かう鉄道線に相互乗り入れを行う。



本牧並木通りを走るEST(イメージ図)

5/9

地域消費型ECOエネルギーがもたらす閑静な 住居地区の街づくり

● 「環境の21世紀」は生物多様性社会

地球温暖化を含むさまざまな環境問題を解決するには、私たち一人ひとりが地域の環境に対して自覚を持ち、課題解決に向けた地道な活動に取り組む必要があります。

横浜市がまとめたCO-DO30で示した「都市緑化CO-DO」では、窓を開けてもすこしやすく、通りを歩いても快適な、緑あふれる都市を、緑が資源としても有効に活用される生物多様性社会を目指しています。

【緑まちづくりでグリーンチェーン推進ネットワーク団体と提携】

● 住民の居住性や生活利便性を重視

次世代、次々世代に連綿とつながる「本牧に既にある緑」を維持・保全するまちづくりを行うとともに、遮熱性製品を用いた車両や停留施設を創出したり、沿線各地にクールスポットを設けたりしてヒートアイランド対策の集中的な「CO-DO」(行動)を起こします。

さらに環境科学研究所と連携し、沿線に設けるクールスポット効果の検証に参加、検証結果のフィードバックを受け、本牧地区を「最先端ECOトランジットシティ」の先駆け、わが国の「環境モデル都市」、世界の手本となる「国際観光・循環型環境モデル都市」にふさわしい街の「顔」にしたいと考えています。



本牧神社の「お馬流し」祭り

6/9

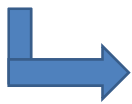
ECOエネルギー活用公共交通システム導入検討

LRT本牧事業推進PJでの 事業費検討



総事業費407億円:(想定)

- ▣ 運賃収入18億円/年間
- ▣ 営業収入82億円/年間
- [:開通5年後目標
- (新規ビジネスモデル構築)
- ▣ 事業支出16億円/年間
- ▣ 開業後15年以内に黒字
(地下鉄は開業30年後)



本牧エコトランジット シティ協議会に発展



本牧地区で住民とのLRT導入検討の
意見交換会を開催:(2005年)

- 5人の専門家
- 28人の発起人



7/9

協働トリップ調査およびEST導入現地調査研究費

• 商店主と住民意識調査

- 1.商店主:アンケート調査(第一回調査費)
- ① アンケート票の作成 ¥500,000-
 - ② アンケート発送回収 ¥200,000-
 - ③ データ入力等 ¥200,000-
 - ④ 入力・集計・まとめ ¥200,000-
 - 小計 ¥1,100,000-
 - 世帯表印刷・往復葉書・郵送費など
(商店街・一般世帯想定) ¥400,000-
 - 合計 **¥1,500,000-**
- 2.住民:アンケート調査(第二回調査費)
- ① アンケート発送回収 ¥100,000-
 - ② データ入力等 ¥100,000-
 - ③ 入力・集計・まとめ ¥200,000-
 - 小計 ¥400,000-
 - 世帯表印刷・封筒・郵送費など
(4,000世帯想定) ¥1,100,000-
 - 世帯表印刷・封筒・郵送費など
(8,000世帯想定) ¥1,500,000-
 - 合計 ¥3,000,000-

【2008年:商店街の商店主に聞き取り調査を行う】

商店主・住民へのアンケート調査および
横浜市との協働トリップ・研究調査経費

• ESTシステム導入路線調査

3. EST導入研究資料作成(現地街路調査費)
- ① 本牧地区の現況・将来性 ¥800,000-
 - ② システム導入方針 ¥400,000-
 - ③ 公共交通システム検討 ¥2,000,000-
 - ④ CO2削減量検討 ¥400,000-
 - ⑤ 実現化・課題等 ¥200,000-
 - ⑥ 打合せ・ヒアリング・視察など ¥300,000-
 - 小計 ¥4,100,000-
 - 旅費交通費など ¥300,000-
 - PT調査申請・集計費など ¥1,000,000-
 - 資料の印刷など ¥100,000-
 - 小計 ¥1,400,000-
 - 合計 ¥5,500,000-

【協働調査・研究費=総額1.000万円】

8/9

ブランド本牧を走る！— 懐かしの路面電車

ご静聴ありがとうございます



米軍接收時代の三の谷風景：（1946年）

9/9